

令和8年度第1回米子市地域福祉計画・地域福祉活動計画推進委員会
議事録

1 日時

令和8年6月30日（火）午後2時00分から午後3時35分まで

2 場所

ふれあいの里 4階 中会議室1・2

3 出席者

（1）委員

加川充浩委員（委員長）、青木淳英委員（副委員長）、清水典子委員、辻谷由美委員、奥田登委員、深田久美子委員、平林和宏委員、今川由紀子委員、廣江仁委員、善波吉人委員、谷尚美委員、藤吉航介委員、木村美紀委員、山下美代子委員、松本弘一委員

欠席委員：徳岡洋子委員

（2）事務局

【市】

足立福祉保健部長、小西福祉政策課長

福祉政策課福祉政策担当：安東担当課長補佐、仲佐主任、瀧川主事

福祉政策課総合相談支援担当：松原課長補佐、廣江係長、佐々木係長

【関係課職員】

福祉課、障がい者支援課、長寿社会課、健康対策課、フレイル対策推進課、防災安全課、職員課、交通政策課、地域振興課、クリーン推進課、こども政策課、こども相談課、こども施設課、商工課、スポーツ振興課、住宅政策課、学校教育課

【米子市社会福祉協議会】

景山事務局長、遠藤次長、森本センター長、寺本課長、礪岩主任

（3）傍聴者

2名

4 配布資料

事前送付資料：次第、資料１、資料２、参考資料

当日配布資料：令和７年度の主な取組（米子市社会福祉協議会）

5 審議の経過

- （１）開会
- （２）会議の成立宣言
- （３）米子市福祉保健部長あいさつ
- （４）米子市社会福祉協議会事務局長あいさつ
- （５）委員長、副委員長の選任
- （６）会議の公開

会議の公開及び議事録の作成について一同承認

- （７）議題 第２期米子市地域“つながる”福祉プランの令和７年度分の評価について
配布資料に沿って、事務局から説明

【意見等】

○加川委員長

日常生活自立支援事業の新規件数が少ないが、背景にどのような事情があるのか。成年後見制度の見直しに伴い、今後は本事業へのニーズ増が予想されるため懸念している。

○米子市社会福祉協議会

生活支援員の確保が難航しており、社協内の体制を含め、次々と新規を受け入れる体制が整っていないのが現状である。３年ほど前から市民後見人養成講座の修了生へ生活支援員登録を呼びかけ、５名ほど定着していたが、高齢化による入れ替え時期を迎えている。昨年度から改めて呼びかけを強化している。

○平林委員

社協の法人後見への取り組みは助かっているが、計画の目標値（１１年度末までに３件）では市民のニーズに対して受け皿が足りない。担当に福祉政策課も加え、市全体でニーズをモニターしてほしい。

○深田委員

ボランティア研修の参加者が同じメンバーではないかと感じている。また、実績と

して新規登録数の増加のみが書かれているが、登録団体数が減っている実態を隠さず、前向きな推進策を考えてほしい。

○米子市社会福祉協議会

指標が新規登録数であるためその数値を記載した。委員ご指摘のように高齢化等により活動を終了する実態もある。対策としてInstagramやLINEでの情報発信、他団体との交流会等で裾野を広げる取組を進めている。

○今川委員

児童虐待等の相談先についてホームページ掲載やリーフレット等で周知された結果、どのような反応があったか知りたい。児童虐待やDVの相談窓口はハードルが高いと感じる母親が多いため、民間団体の力を借りて適切な場所に繋げる方法を見える化してほしい。また、「te to te～つなぐん家～」での福祉教育について、こどもたちが支援する側になることも学んでいる。夏休みに行く勉強会も楽しみにしているという生の声を届けたい。

○こども相談課

こども総合相談窓口を設け、様々な問い合わせ、相談事を受け、適切な部署への接続や伴走支援を行っている。周知として、学校を通じてチラシを配るなどこども向けの啓発にも努めている。実績については、様々なところで対応していることから、この時点で数値的なデータをお示しすることは難しい。

○今川委員

こどものことなので気になっているところ。皆さんがどれくらい悩みを抱えているかについては、私たちも考えながら動いていきたいと思う。機会があれば、データの見える化をお願いしたい。

○木村委員

計画の指標が定性評価になっているものが多く、来年度に向けた方針が盛り込まれていない点に違和感がある。また、相談窓口の周知が市役所の中では福祉分野に限られている。福祉分野以外の窓口などにも情報を置き、当事者が気付ける仕組みを作るべき。

○辻谷委員

米子市で学校の手には負えないほど非行に走る少年が増えており警察も住民の協力を求めている。背景には経済や家庭の問題があると推察されるため、福祉と教育、関係

各課が連携して安心安全な街にしてほしい。

○廣江委員

他の委員さんも指摘されているように何回やったかではなく、結果として何が進んだかを評価すべき。次の計画づくりの時でもいいと思うが、何かしらの工夫が必要。福祉避難所の拡充が「維持」に留まり拡充できなかった理由、一般避難所でのスペース確認が2件に留まった理由、個別避難計画の作成が昨年度で終わったと思うのでその精査結果が聞きたい。また、直近の自死者数を把握していたら教えていただきたい。国がこども向けの心のサポーター養成研修のスキームを作成したので、連携して是非取り組んでいただきたい。

○福祉政策課

第1期の反省から、第2期（5カ年計画）では数値目標を定めて客観評価を行っている。本質的な効果検証に向けて、ロジックモデルの導入や他計画との相関分析などを積み重ねていきたい。福祉避難所の拡充については、こちらの情報発信不足も考えられる。一般避難所の確認については当初の見立て・調整不足が原因であり、今年度は夏頃から計画的に確認作業を進める。

○健康対策課

直近の自死者数は手元にないため後ほど回答する。心のサポーター養成研修については、今年度保健師が養成者研修を受けることを考えており、どのような場面で活用できるのか検討しながら実施していきたい。

○廣江委員

養和会にも講師資格者が多数いるので活用してほしい。福祉避難所については、災害時にどのような人が来るのか、どのような備えが必要なのか分からない。福祉避難所を増やすのは大事だが、福祉避難所にどのような人が避難するのか検討し、目標値を定めて取り組む必要がある。

○松本委員

自身が携わるサポステでは自宅訪問などのアウトリーチができないため、発達障がいやひきこもり等の困りごとを抱える人の支援において、米子市の総合相談支援センター「えしこに」の体制や連携は非常にありがたい。

○山下委員

地区で買い物支援（訪問型サービスD）を立ち上げる際、任意組織であるため社会

福祉法人からの車両借用契約の締結に時間がかかった。住民が主体となって地域の課題を解決しようとしているが、未来に向けての関わりがまだなかなか難しいところがあるため、そういったところで公民館や市による後方支援・助言体制がほしい。また、地域活動の担い手が高齢者ばかりになってしまっている。今は中学生・高校生にも協力を呼びかけているが平日は学校があるため、準備等は高齢者が担っているため、市や社協の職員、若者も地域の一員として関われる時間も作っていただけたら嬉しい。

○清水委員

高齢者の買い物難民が多いため、五千石地区で行われた「ごいっしょお買い物♪事業」を令和8年度に向けて他の地区でも実施する予定はあるか。

○米子市社会福祉協議会

五千石地区のモデル事業はボランティアへの引き継ぎが終わり運行を拡大したばかり。社協が自ら他地区へ広げるのは難しいため、メディアやSNS等で手法を発信し、「自分たちもやってみよう」という他法人や団体を増やすアプローチを行っている。

○深田委員

市内障がい者施設が虐待認定により研修を受けることとなったが、研修の実施報告を受け取るだけでなく、担当職員は研修に立ち会い、現状に困っている現場のリアルな声やアドバイスに向き合ってほしい。

○青木副委員長

社協の「まちづくりプラン」が2地区で作成されるなど、今まで見えにくかった地域の活動や買い物支援の動きが見えるようになってきた。住民が生活課題に向き合い、行政・社協がそれをサポートする積み重ねが大切である。

○加川委員長

総合相談支援のエリア設定（全市1箇所でのよいのか、どう展開していくか）については、今後の重要な課題として別途思案していきたい。

(8) その他

ア 第2期米子市地域“つながる”福祉プラン概要版の点字版作成について

イ 生活福祉の困りごと相談事例集発行について

(9) 閉会